

創世記28章11-17節 「あり得ないところに、おられる主」

1A 石の枕

1B エサウからの逃亡

2B 荒地

2A 天に届くはしご

1B 主ご自身

2B 大いなる約束

1C アブラハムへの誓い

2C 旅の安全

3A 天のはしごなる方

1B 地における神の栄光

2B 人の弱さに寄り添う方

3B 罪の屈辱を耐えられた方

4B よみがえりの方

4A どん底で天を見せる主

本文

創世記 28 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、26 章まで来ていますね。午後礼拝で、27-28 章を一節ずつ見ていきますが、今朝は、11-17 節に注目したいと思います。

¹¹ 彼はある場所にたどり着き、そこで一夜を明かすことにした。ちょうど日が沈んだからである。彼はその場所で石を取って枕にし、その場所で横になった。¹² すると彼は夢を見た。見よ、一つのはしごが地に立てられていた。その上の端は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしていた。

¹³ そして、見よ、主がその上に立って、こう言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。¹⁴ あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。¹⁵ 見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

¹⁶ ヤコブは眠りから覚めて、言った。「まことに主はこの場所におられる。それなのに、私はそれを知らなかった。」¹⁷ 彼は恐れて言った。「この場所は、なんと恐れ多いところだろう。ここは神の家に

ほかならない。ここは天の門だ。」

私たちは前回から、ヤコブの生涯を学んでいます。彼が生まれる前から、主は、兄エサウがヤコブに仕えるようになる、すなわち、アブラハムからの祝福の約束は、ヤコブに受け継がれると言われたところを見ました。そして、エサウはお腹が空いていて、一杯の汁と引き換えに、長子の権利をヤコブに売ったところを見ました。

1A 石の枕

1B エサウからの逃亡

そして今回は、父イサクがエサウに祝福しようとするところを、27章で見ます。エサウがしとめた獲物の肉が好きだったので、それでエサウに、アブラハムからの祝福を受け継がせようとしたのです。ところが、リベカがヤコブに、エサウのふりをしなさいと言いつけます。そして、ヤコブは、自分がエサウだと偽って、目が見えない父の祝福をエサウではなく、自分が受けました。そしてエサウが後でやってきましたが、もう祝福は残されていません。これで、エサウが、父の死後、エサウを殺そうと考えました。

それに気づいたリベカは、ヤコブに、リベカの兄ラバンのところに居なさいと言いつけます。そして、自分自身がそうであったように、ラバンの家から、お嫁さんになる人を探しなさいと言いつけます。それで、彼は杖を一本だけを持って、旅に出かけたのです。

その晩、何もないところで、枕するところもないので、石を枕にして野宿していました。すると、見た夢がこれだったのです。主はアブラハムを祝福し、また約束の子イサクも祝福しました。けれども、ここまで明らかに、天に届くはしごをもって、主ご自身が現れて、約束を与えられた幻は、ここ以外に出てきません。私たちは前回、学びましたね？主は、生まれる前からヤコブを愛し、選んでおられました。恵みによって選ぶという計画を、私たちの神はお持ちです。ここで、はっきりとわかります。ヤコブが、その人生において最も、暗い時、その時に、天にある神の栄光を見たのです。

2B 荒地

ヤコブにとって、兄に殺されそうになって逃げています。そして、独りで遠いところに行き、お嫁さんを探さなければいけません。そして今、枕にしているのは石です。何もないところ。私は、イスラエルへの旅で、このベテルにも行きました。はっきり言えば、何でもない岩地です。後の旅で、再びベテルの近くを通りました。その時に、ユダヤ人のガイドさんが、とても良いことを言ってくれました。「これだ！」と思いました。「何にもないところ、人目につかないところ、そういったところを主は選ばれたのです。同じように、主は、何でもない者、特に魅力的ではないところ、むしろ負い目があるような人に、また、そのような状況に、主は天から目を注いでくださいます。」

いかがでしょうか？私自身の救いが、このようなものでした。高校まで、抑うつではなかったのでは思われるほど、精神的に追い詰められていました。大学で心機一転と思いましたが、サークルで自分の身勝手に人間関係が悪くなりました。そして、打ちひしがれた思いで、冬休みになって実家に戻りました。教会のクリスマス礼拝で、キリストが世に光として来られた話は聞きましたが、そこでは特に心が動かされることはなく、独り、自分の部屋にいました。そこは、まさに、自分が受験勉強で精神的に追い詰められていた部屋です。けれども、大学に入っても、敗北感でいっぱいになったのです。それで祈ったのです。神に目を背けていた罪を悔い改めました。そうしたら、本当に神が、頭のとっぺんから足のつまさきまで、受け入れておられることに気づきました。

大学のキャンパスで、他のクリスチャンたちがいることを知りました。祈り会があり参加してみると、私の、クリスチャンに対するイメージが一気に壊れました。祈りがものすごく、人間臭いと思ったのです。例えば、口内炎が直るように祈ってくださいとか。そんな小さな事を神の前に持ち出していいのか？と思いました。究極が、先輩クリスチャンの発言でした。「俺、トイレだと、すごく祈れる。」私の、祈りについてのイメージが、割れたガラスのように粉碎された瞬間でした。それまでは、ステンドグラスのある美しい教会堂で、祈るのが祈りだと思っていたので。まさに、何にもない、岩地で寝ていたヤコブが、天のはしごの夢を見たように、ありえないところに主がおられるのです。

2A 天に届くはしご

あり得ないところに主がおられるということを、可能にするのが、天と地を結ぶはしごです。12節に、こうあります。「**すると彼は夢を見た。見よ、一つのはしごが地に立てられていた。その上の端は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしていた。**」地において、いろいろな人間模様があります。人間の生々しい、罪から来る現実があります。ヤコブの家では、イサクがエサウを祝福しようとした、それが獲物の肉がうまいからという理由で祝福しようとしたところから始まります。妻リベカが企みます。ヤコブは偽ります。そしてエサウは憎みます。一家が、ばらばらになってしまった事件です。私たちにも、そんな経験があるでしょう。人に知られたくない負の歴史です。

しかし、その地から、上の端が天に届いているはしごがあるのです。神の使いたちが、上り下りしています。その人間臭い、生々しい地において、天における神の栄光を味わうように、神はその恵みのゆえ、してくださるのです。

1B 主ご自身

そして13節には、「**そして、見よ、主がその上に立って、こう言われた**」とあります。はしごの上に、主がおられました。他の訳では、「彼のそばに」となっています。ヤコブのそばに、主が立っておられました。こちらのほうがすごいですね。主があたかも、天から降りてこられて、ヤコブのそばにおられるように書かれています。

2B 大いなる約束

そして大いなる約束をくださいました。「^{13b} わたしは、あなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。¹⁴ あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。」

1C アブラハムへの誓い

主は、ご自身を、アブラハムの神、イサクの神と呼ばれます。アブラハムに約束されたことをイサクが受け継ぎ、イサクに約束されたことを、ヤコブが受け継いでいます。そして、はっきりと、この地を、彼とその子孫に与えると言われているのです。そして、子孫が地のちりのように多くなります。そして、彼らは東西南北に広がって、住みます。それから、子孫によって、世界のすべての人々が祝福されるのです。この子孫からキリストが来られて、キリストにあつてすべてが祝福されます。

今日は、イスラエルからの兄弟をお迎えしています。これこそが、そのまま、アブラハムへの約束の成就です。子孫が途絶えるどころか、一つの国民となっています。そして、その子孫が、今、ヤコブに約束された地に住んでいます。そして、イエスはユダヤ人であり、弟子たちのユダヤ人であり、彼らが異邦人に福音を伝えて、それで私たちは救われています。

2C 旅の安全

ヤコブは、エサウを騙して、兄から殺意を抱かれているという負い目があります。それだけではなく、たった独りで、お嫁さんを探さなければいけないという、将来の不安もあります。しかし、主は約束されました、15節です。「見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」これからの旅は、ラバンの家で働くこととなりますが、過酷です。けれども、主は確かに、ヤコブを守られます。

3A 天のはしごなる方

このように、彼の人生のどん底で、これまでにない神の栄光を見ました。ヤコブは、「**ここは神の家にほかならない。ここは天の門だ**」とまで、言います。そして、ヨハネの福音書を見るならば、イエスご自身が、すごい発言をされます。弟子になるナタナエルに対してです。「1:51 まことに、まことに、あなたがたに言います。天が開けて、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたは見るようになります。」

1B 地における神の栄光

主は、人の子、つまりご自身が天のはしごだと言われています。御使いたちは、はしごの上を、上り下りしていましたが、人の子の上を、上り下りすると言われているからです。つまり、ご自身が、

この地上において、人々の営みの中で、天の栄光にあずかることのできる、はしごなのだと言われているのです。事実、2章ではカナの婚礼で、水をぶどう酒に変えるという、神にしかできないわざを、弟子たちは見ました。結婚式という、人々の営みに神の栄光を見せました。

「ヨハ 1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」私たちの間に、住まわれたというのが大事です。人から離れているのではなく、そのど真ん中に住まわれました。直訳では、「幕屋を張られた」です。そして、幕屋の中で、神の栄光が輝いたように、そのど真ん中で、神の栄光が輝いています。

2B 人の弱さに寄り添う方

そして、主は人の弱さを知らない方ではありませんでした。「ヘブル 4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。」主は、私たちと全く同じ、肉体を持っておられました。だから、病を知っておられたし、疲れも知っておられます。喜怒哀楽もあります。しかし、聖霊に満たされ、それらを父なる神のみこころに沿って、生きておられました。

ですから、先ほど、私は、「口内炎のために祈ります」という言葉にぶったまげたことを話しましたが、まさに、こういったことを祈る特権を、私たちはイエスの御名によって持っているのです。どんな小さなこと、些細なことも、主の前に持っていくことのできる恵みがあります。むしろ、私たちは、「これは、まさか主の前に持っていけない」というものがあれば、それこそ祈りましょう。主の前に良い顔をしても、意味がありません！主はすべて知っておられます。正直になって、それで、悔い改めればよいのです。

3B 罪の屈辱を耐えられた方

そして、主は何よりも、私たちの罪ゆえ、その屈辱を受けられて、天と地を完全につなげられました。「ヨハ 3:13-14 だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。」上げられるとは、木にかけられる、ということです。モーセが旗竿に、青銅の蛇をかかげるように命じられました。それを掲げると、それを見たイスラエル人が、蛇によって死にかけていたのに、生きたのです。同じように、十字架にかけられたイエスを見上げるならば、その罪がこの方の十字架で裁かれていることを知り、自分の罪が赦され、死なないで、生きることができるのです。

4B よみがえりの方

そして、主はよみがえられました。私たちが、この世において、この世の求める可能性が削がれていきます。自分自身のために生きるのではなく、イエスと福音のために死ぬようになっていきま

す。自分を生かすのではなく、キリストがご自身のいのちを献げられたように、キリストにあって死んでいきます。しかし、主は、そうやって自分自身に、罪に死んでいく私たちに、よみがえりのいのちで満たしてください。「Ⅱコリ 4:10 私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。」

4A どん底で天を見せる主

このようにして、私たちは自分が低められる時に、高められます。低められ、どん底にいる時に、実は、最も高いところを歩ませていただけます。「詩 61:2 私の心が衰え果てる時私は地の果てからあなたを呼び求めます。どうか及びがたいほど高い岩の上に私を導いてください。」自分が衰え果てます。これは、英語では overwhelmed と訳されています。ヘブル語ではアトフ(אֲטוּף)です。自分が圧倒的に弱さを感じて、自分では何もすることができない状態です。その時に、及びがたいほど高い岩の上に導いてくださいます。どん底から、巨大な、そびえる岩の上に導かれるのです。

そしてヤコブは、自分の寝ていた石を立てて、そこに油を注ぎ、そこを神の家、ベテルとしました。そして、最後に 20 年ぐらいの旅を終えて、ベテルに戻ってきて、そして主がそこで現れます。そして祝福されるのです。ここに、神がおられるのだ！ということを知って、それで私たちは、世においてどんなことが起こっても、主に立ち返ることができます。